

厚生病院だより

すずかけ



第38号 平成24年11月9日

発行／鳥取県立厚生病院

編集／院内広報委員会

中部地区における医療連携の強化について

厚生病院に勤務してきた職員同士の連携強化のために平成21年から毎年「厚生病院OB会」を開催して参りまして、今年で4回目になりました。以降、毎年退職者を含めた多数のOBの方々が職種を超えて一緒になり、交流を重ねて参りました。

ところで、この中部地区における医療機関同士の連携は、東部地区、西部地区のそれぞれに比較して、やや停滞気味の感があります。その背景の中で、OB会の特徴を活かしてこれを残しながら、一方では、OB会としての厚生病院関連の関係に限定されず、更に輪を広げて中部地区における病-病連携、病-診連携の強化につながる場を持ちたいとの思いが広がって参りました。

このため、今回から、「厚生病院OB会」を「**厚生病院報告会・意見交換会（懇親会）**」（平成24年11月22日（木））に変更させていただき、交流を拡大させていただくことにいたしました。その目的は、地域完結型医療完成のための病-病連携、病-診連携の強化であり、各種の連携プログラム、連携クリニカルパスの効率向上にあります。

医療機関の皆様方のご参加を何とぞ宜しくお願い申し上げます。

院長 前田迪郎



厚生病院の基本理念

思いやりと優しさ、真心のこもった信頼される病院

優れた医療を提供し、地域と密着した病院

職員の和を尊び、働きがいのある病院

第38号の内容

中部地区における医療連携の強化について	…1	リハビリテーション室より	…5
移動式C型アーム血管造影装置の導入と将来展望	…2	新任医師あいさつ	…6
脳死下臓器移植提供施設へ	…2	新任看護師としての半年を振り返って	…6
医療安全・感染防止対策室の取組	…3	図書室をご利用ください	…7
認定看護師の紹介	…3	七夕を実施しました	…7
市民公開講座を開催しました	…4	新任医師、退職者の紹介	…7
その他平成24年度の公開講座の報告とお知らせ	…5	コンビニエンスストアとレストランがオープンしました	…8

移動式C型アーム血管造影装置の導入と将来展望

当院では、血管外科と放射線科がそれぞれの得意分野を生かし、常に協力して血管疾患の治療を行っています。いわゆるハイブリッド手術といわれる最新の治療ですが、このような協力体制をとっている病院は県内にほとんど無く、当院の特色の一つとなっています。

平成24年5月7日、手術室に新しい**C型アーム血管造影装置**が設置されました。この装置の稼動によりハイブリッド手術をより多くの患者様に安心して受けていただける環境が整いました。

21世紀の医療は、「患者さんへの負担の少ない治療」が大きなテーマとなっており、今後も新しい手術法が次々と開発されていくと思われまます。その流れに乗り遅れないためにも、今回導入された血管造影装置を有効に活用し、看護師さんや放射線技師さんたちの協力を得ながら、より質の高い医療をめざして行きたいと思ひます。



移動型C型アーム血管造影装置の試運転の様子

放射線科部長 橋本政幸

脳死下臓器移植提供施設へ

病気、けがで家族を亡くしてしまう、こんなに悲しいことはありません。

無念さの中で「それでも臓器提供することで、命が繋がるのであれば」との遺族の厚い思いを受けとめる環境整備が進んでいます。

平成21年7月、改正臓器移植法の国会成立を受け、当院では平成22年6月には鳥取県知事から3名の院内移植コーディネーターが委嘱され、心停止下の臓器提供環境を整えてきました。平成24年5月に臓器移植に関する施設マニュアルの改訂により当院が脳死下臓器提供施設に該当することとなりました。これを受け病院内の倫理的コンセンサスを

得た後、10月4日には脳死下臓器提供を前提とした院内シミュレーションを実施いたしました。法的脳死判定という大切なステップを経由することも病院職員全員で確かめました。

これで脳死下臓器提供の準備は整いました。重要な以下の大前提があることも確認できました。

(1) 最後の最後まで最善で最良の医療を尽くしきり(2) 繋がる医療に貢献したいと願う、ご遺族の厚意をしっかりと受け止めます。



10月4日脳死下臓器提供の院内シミュレーション

副院長 紙谷秀規

医療安全・感染防止対策室の取組

医療安全と感染防止はどちらも医療の安全を確保すべく、①患者様、ご家族、当院職員など病院に関係する全ての人々を対象とし、②組織を挙げて対策に取り組む、という共通の目的があります。対策室はこの目的を達成するために、紙谷副院長を室長として、医療安全および院内感染対策の専従2名を含め8名の室員で構成され、院内での重要な役割を果たしています。

しかしながら、人間が行う医療に100%安全はありません。当院でも、様々な事故が報告され、院内感染が発生するなど、課題は尽きません。そうした問題を直視し、誠実に対応し、検証し、効果的な対策を提案し、継続して実践するなど、より安全で安心な医療が提供できるよう、病院をあげて真摯に取り組んでいるところです。

患者様、ご家族をはじめ、当院をご利用いただく皆様には、安全確保へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

8月8日から9月28日まで、医療安全に対する関心を高めるため、「医療安全に関する川柳」を院内で募集しました。

54点の応募の中から審査の結果、次の3点を優秀作品として決定しました。

最優秀賞「ヒヤリハット 活かして育てる 予知する目」(匿名)

優秀賞「声かけて 気持ち伝えて 安全に」(看護局 湯浅良恵)

佳作「高めよう 安全意識 プロ意識」(看護局 石田直美)

認定看護師の紹介

救急看護認定看護師 布廣浩二

救急医療は、診療科、年齢層、重症度を問わず、また基礎疾患に関係なく、急病や事故、さらには災害など、多岐にわたる患者の診察が行われています。また、これらの情報が事前に明らかになっていないことが多いのも特徴です。

以前から私は、救急医療、救急看護とはなにかを自問自答しながら、経験年数だけを重ねている状況でした。今までは、『救急看護ってこんなことかなあ』と感じることはありましたが、今後は言葉にしてスタッフに伝えていかなければならないと思うようになりました。自分の看護を言語化すること、他者に伝える難しさに悩んでいたころ、三次救急施設での研修の機会がありました。そこで活躍をされていた看護師の姿を見て今までの自分の看護を振り返るとともに、次へのステップアップが必要と感じ、認定看護師を目指しました。

研修学校では同僚との意見交換で他施設の現状も知り、自施設の弱みだけでなく強みについても考えることができました。施設背景の違いもあり、学んだことが全て自施設で実践できるわけではありませんが、学びを現場でいかに実践するか、二次救急看護のアウトカムについて考えていくことが必要だと考えています。

初年度の取り組みとしては、救急外来でのメンバーとして実践を行い、指導の面では所属部署での勉強会、救急外来での実践指導。BLS、AED講習会を行い、認定看護師としての役割を果たしていこうと考えています。



皮膚・排泄ケア認定看護師 4階病棟 生田奈緒美



私は、平成24年6月に皮膚・排泄ケア認定看護師の資格を取得しました。

現在、ストーマ外来の運営、褥瘡対策チームと協働して褥瘡回診、褥瘡対策委員会活動などチーム医療の取り組みを行っています。また、皮膚・排泄ケア領域における統一した看護実践ができるようスタッフのレベルアップをはかるため院内教育を行っています。

その他褥瘡などの創傷管理および人工肛門・人工膀胱、失禁等の排泄管理、患者様やご家族の自己管理およびセルフケア支援なども私の役割です。患者様、御家族の皆さまがよりよい日常生活をお過ごしいただけるよう人工肛門・膀胱に関わること、褥瘡、排尿・排便障害やスキンケア全般、フットケア等についてご相談をお受けしております。お気軽にご相談ください。

市民公開講座を開催しました

『女性のがん－予防から診断治療まで－』

平成24年6月24日倉吉交流プラザにて開催しました。通常の市民公開講座よりも多くの女性の聴衆のご参加をいただき、満席となりました。

○講演1「子宮がんについて」－予防から治療まで－ 当院産婦人科部長 大野原良昌先生

子宮がんには「子宮頸がん」と「子宮体がん」があります。子宮頸がんは、発がん性ヒトパピローマウイルス（HPV）の持続感染で起こります。子宮頸がん予防ワクチンが開発されており、このワクチンを接種することで、子宮頸がんを7割方予防することができます。すでに感染しているものには効果はありません。子宮頸がん早期発見と予防のためのアドバイスは、「あなたには子宮がん検診を、娘さんにはワクチンを」です。

○講演2「卵巣がんについて」 当院産婦人科医長 門脇浩司先生

婦人科のがんの中では、死亡数は最も多くなっています。その理由は、がんが進行するまでほとんど症状がなく早期発見がむずかしいためです。卵巣がんの発生には排卵が関与していると考えられ、排卵回数が多い人は卵巣がんになりやすいといわれています。卵巣がんは早期発見がむずかしいがんですが、標準的な治療も確立されています。検診での早期発見が重要です。



「女性のがん」講座の様子

○講演3「乳がんの診断と治療について」

当院外科副医長 田中裕子先生

乳がんは日本人女性になるがんの第1位です。「乳がん」とは、どんな病気なのか、なぜ乳がん検診が大切なのか、乳がんになってしまったらどんな検査や治療をするのでしょうか？乳がんの基本的なことを知り、乳がん検診を受ける方が増えればと思います。

○総括 女性のがんの鳥取県の検診率は20～25%で目標の50%には到底及びません。検診の重要性を、3人の演者とも強調しております。

中央手術センター長 吹野俊介

『肺がんのはなし－患者さまの体験談－』

平成24年9月9日倉吉交流プラザで開催しました。今回の講座には、患者さんの体験談発表があり多くの聴衆の参加がありました。

○講演1「肺がんの検査と診断」－検診から診断まで－ 当院呼吸器内科部長 山本芳麿先生

中部地区の肺がん検診の受診率は20～25%で目標の50%には及びません。

肺がんの診断には、胸部Xp、喀痰細胞診、CT検査、気管支鏡などがありますが、まず最初に簡便な胸部Xpで異常を発見しないことには始まりません。それには検診が重要です。また気管支鏡検査とはどういうものか、動画を見ていただきました。肺がんの80%以上は喫煙者です。禁煙が重要です。

○講演2「喫煙者の肺がんの手術」当院中央手術センター長 吹野俊介先生

タバコを吸えば、肺がんになります。治るためには手術が必要です。しかしタバコを吸っている人の肺は、手術が行いにくく危険性も上昇します。そして術後の合併症も増加します。その理由を動画を見ていただきました。また、タバコのやめられないニコチン依存症について、まわりに迷惑をかける受動喫煙と治療法を説明しました。

○講演3 肺がんの患者さまの体験談

「私は、肺がんが治りました」－吐くと吐う－

術前・術後の精神的・肉体的な苦労話をユーモラスにお話いただいた。会場が和みました。

○講演4 肺がんの患者さまの体験談

「私は肺がん治療中です」－がんよ、ありがとう－

術後1年経過中の患者さんです。必ず肺がんは治ると心に決め、前向きに日常を過ごすことを信念とし、がんに負けないようにしておられます。



「肺がんのはなし」講座の様子

中央手術センター長 吹野俊介

その他平成24年度の公開講座の報告とお知らせ

医療スタッフ向けの公開講座

- 1 **新しくなる放射線治療（報告）**（平成24年10月25日（木）午後5時30分～ 厚生病院大会議室）
講演①「中部の放射線治療、～来年5月何かが変わる～」 厚生病院放射線科部長 橋本政幸先生
講演②「ピンポイント放射線治療への取り組み」 厚生病院中央放射線室 砂川知広副主幹
講演③「当院における放射線治療のこれから」 鳥取大学医学部放射線治療科 道本幸一先生
- 2 **がん薬物療法公開講座**（平成24年11月15日（木）午後5時30分～ 厚生病院大会議室）
講演①「当院の薬物療法の現状報告」 厚生病院がん化学療法看護認定看護師 竹歳祥江看護主任
講演②「がん薬物療法と有害事象—腫瘍内科医育成を考えてみませんか—」
鳥取県立中央病院内科医長 陶山久司先生
- 3 **第6回鳥取県がんフォーラム**（平成25年1月19日（土）午後1時～（予定）倉吉交流プラザ^{ラサ}視聴覚ホール）
パネルディスカッション「進行・再発大腸がんの治療方針」
特別講演「進行・再発大腸癌に対する化学療法の目的と実際」（仮題）
愛知県がんセンター中央病院 薬物治療部部長 室圭先生

市民公開講座

- 1 **最新の乳がんの話**（平成24年11月25日（日）午後1時30分～ 倉吉未来中心セミナールーム3）
講演①「乳がんの診断について—乳がん検診の意義—」
鳥取大学医学部付属病院乳腺内分泌外科診療教授 石黒清介先生
講演②「乳がんの治療について—薬物、手術、放射線治療—」 厚生病院外科医長 内田尚孝先生
講演③「乳がんの放射線治療って、どんな治療？—患者さんの声から—」
厚生病院放射線科外来 宮本佳子看護主任
- 2 **生活習慣病**（平成25年1月27日（日）午後1時30分～（予定）倉吉交流プラザ^{ラサ}視聴覚ホール）

リハビリテーション室より

現在、リハビリテーション室では、理学療法士5名、作業療法士2名、言語聴覚士2名、医療助手1名の計10名で毎日の業務に当たっています。

ここでは、リハビリテーション室の最近の取り組みについて少し紹介させていただきます。

新たな取り組み その1

地域がん診療連携拠点病院のリハビリテーション部門として、従来の「脳血管疾患等のリハビリテーション」「運動器リハビリテーション」「呼吸器リハビリテーション」に加えて、平成23年11月より「がんのリハビリテーション」を開始しております。

「がんのリハビリテーション」とはがん自体やがんの治療により生じた痛み、筋力低下、種々の動作障害に対して、運動機能の低下や生活機能の低下予防・改善を目的として行うもので、患者様一人一人の状態にあわせたプログラムで行います。

新たな取り組み その2

これも昨年からです。三日間以上の連休になったときに、中日に半数のスタッフが出勤して入院患者様を対象にリハビリを行う取り組みを行っています。代休は取れませんのでスタッフの負担は増えますが、少しでも患者様の早期社会復帰に貢献できればとの思いから、みんなで頑張っております。

以上の2点がリハビリテーション室の最近の取り組みです。

急性期病院である当院の業務量からすると、決して十分なスタッフ数とは言えませんが、10名が力を合わせて少しでも質の高いリハビリテーション医療を提供出来るように頑張っています。今後ともよろしくご協力致します。

リハビリテーション室 室長 福井健一



リハビリテーション室内

新任医師あいさつ

外科医長 内田尚孝



この度、外科に勤務させていただくことになりました内田です。専門は、女性が患うがんの中で最も多い乳がんを扱う乳腺外科学です。診療では、ガイドラインに従った乳がんに対する標準的治療を遵守していくことを心がけています。

乳がん治療は、手術療法、薬物療法、放射線療法と、様々な治療法を的確に組み合わせて実施していく総合力が必要な分野です。そのため、外科の医師のみならず、他科の医師、抗がん剤治療に精通した看護師、薬剤師、乳がんの診断に重要なマンモグラフィに精通した放射線技師等との連携が重要な分野であるといえます。当院には、地域がん診療連携拠点病院として、鳥取県中部において、がん診療の中心的役割を担うことが期待されていることから、こうしたスタッフがそろっております。以上のスタッフと協力して、有効か

つ安全な質の高い医療を皆様に提供できるよう、努力していきたくと考えております。皆様のご指導、ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

新人看護師としての半年を振り返って

3階病棟 山本敬子看護師

看護師として働き始めた頃は出来ないことが多く、ただただ先輩のあとについてまわっていました。月日がたつと出来ることも多くなり、嬉しい半面、日に日に責任も重くなり不安も大きくなっていきました。そんな不安な毎日でも、患者様からの応援の言葉や先輩方のフォロー、同期のみんなのおかげで乗り越えることができたように感じます。

看護師の仕事は大変なことも多いですが、この半年で嬉しい出来事もたくさんありました。患者様の笑顔や「ありがとう」の一言は看護師をやって良かったと思える瞬間です。勤務している3階病棟は外科病棟で患者様の入退院が多く忙しい毎日ですが、働いていてやりがいを感じます。また、スタッフ間のチームワークも良く、すごくいい職場です。

まだ半人前ですが、患者様の声に耳を傾け、チームの一員として自分に何が出来るのか考えて行動し、信頼していただけるような看護師を目指して、これからも頑張っていきたいと思っております。



4階病棟 小椋克範看護師

働き始めて早くも6ヶ月が過ぎ、日々の業務をこなすことで精一杯の毎日です。

私の配属先は4階病棟で、小児病棟ということで自分に勤まるだろうかととても不安でした。小児だけでなく他の科もあり検査・処置など覚えることが多く、1度教えてもらったことも先輩看護師に何度も聞いてしまいます。不慣れで効率が悪く迷惑をかけてしまうことも多々あり反省の毎日ですが、みなさんが優しく丁寧に指導してくださり楽しく頑張っています。

患者様は小児から高齢の方まで年齢層が広く大変な面もあり、知識不足で不安にさせてしまったこともあるかと思いますが、笑顔を忘れず接するように心がけています。

まだまだこれからですが、今後は皆さんに信頼される看護師を目指し、いろいろなことに挑戦して行きたいと思っております。



図書室をご利用ください

ご来院される皆様に快適にご利用していただけるよう、図書室を開放しております。

医学書から新聞、小説、マンガ本まで、様々な図書を配架しておりますので、診察の待ち時間や、気分転換などにお気軽にご利用ください。

入院患者さんには、病室への貸出も行っております。ご家族・付き添いの方が、ご来室できない入院患者さんに代わって手続きすることも可能です。窓口までご遠慮なくお申し出ください。



場 所 : 外来・中央診療棟 5階 エレベーター前
 開 室 日 : 月 ~ 金曜日 (祝祭日を除く)
 開室時間 : 午前9時 ~ 正午、午後1時 ~ 午後4時
 貸 出 : 入院患者様 及びその付き添いの方に限り、病室まで貸出ができます。
 お一人様3冊まで 貸出期間は1週間

※図書室内の本・雑誌等の資料は、特定の治療法をお勧めするものではありません。また、患者さんの病気や健康状態と一致しない場合もありますので、ご不明な点、治療等の医療に関するご相談は、主治医・担当医にお申し出ください。

七夕を実施しました



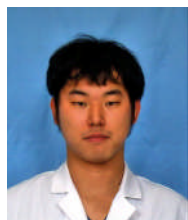
正面玄関ホールの様子

毎年、七夕の時期に短冊に願いをこめて、少しでも心の癒しになればと思い、患者サービス改善委員会が中心となって実施しています。

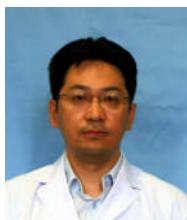
今年は、7月2日から9日まで正面玄関ホールと各入院病棟に笹木(笹木は、職員の山から切り出していただきました)を設置しました。

やっとなが書けるようになった子どもさんが「おじいちゃんの病気が早く良くなりますように」と書かれている姿があり、他にも「手術が成功しますように」、「赤ちゃんが無事に生まれてくれますように」など患者様、ご家族様、職員がそれぞれに願い事をしたためて飾ってくださり、賑やかな七夕飾りとなりました。玄関ドアが開くたびにさらさらと涼やかな笹の音がホールに響きました。

ささやかな催しですが、今後クリスマス会やお正月の催しなど季節感ある行事を行ってきたいと考えています。



消化器外科
 うるしはら しやういち
 漆原 正一
 (医師(専攻医))
 7月1日着任



外科
 うちだ なおたか
 内田 尚孝(医長)
 10月1日着任



小児科
 さかた しんじ
 坂田 晋史(医師)
 7月1日着任

新任医師

お世話になりました。

退職者
 医師
 小児科 後藤 保
 消化器外科 下田 竜吾
 外科 窪内 康晃
 泌尿器科 小林 直人

コンビニエンスストアとレストランがオープンしました

グリーンリーブズモール

GREEN LEAVES MALL (コンビニエンスストア新装オープン)

院内の売店が「グリーンリーブズモール」として4月に新装オープンしました。

店の外装は、名前のおり緑を基調としており、落ち着いた雰囲気の中でお買い物をすることができます。院内の売店ということで郊外型のコンビニエンスストアより店舗面積は若干小さめですが、入院生活に必要な日常生活用品、衛生材料はもちろん、弁当、飲料、お菓子、書籍など充実の商品構成となっています。また、店舗入口では、地域の特産や、季節のお菓子コーナーなど、この店独自の企画を組み、お客さんを飽きさせないお店づくりが行われているのも見逃せないところです。

院内憩いの場「グリーンリーブズモール」でお買い物をお楽しみください。

<店長さんのコメント>

「皆さんに楽しんでお買い物していただける店づくりにこころがけています。是非お立ち寄りください。」

開店時間：平日 7:00～21:00、平日以外 7:00～20:00（年中無休）



展望レストラン「リアン」オープン



レストランの運営事業者の入れ替えに伴い、4月からしばらくの間レストラン不在となり、御来院の皆様には大変ご不便をおかけしました。お待たせしましたが、9月に待望のレストランが開店しました。その名は「展望レストラン『リアン』」。気になるメニューですが、人気の日替わり定食が500円～800円（日によって内容はもとより値段も異なるところが特徴的）、その他定食3種類、丼物・麺類・軽食21種類、喫茶メニュー18種類と多彩。写真は某日の日替わり定食（豚ロースオレンジソースがけ 500円）です。ご覧のとおりボリュームは満点。味も大満足です。

倉吉市内を一望できる展望レストランで皆さんもホッと一息いかがですか？

<店長さんのコメント>

「御来院の皆さん、職員の皆さんに永く愛されるレストランづくりに努めていきますので、是非ご来店ください」

開店時間：平日 8:00～17:30、土曜 9:00～16:00（日曜・祝日・年末年始閉店）



豚ロースオレンジソースがけ

病院概要

名称

鳥取県立厚生病院

所在地/連絡先

〒682-0804

鳥取県倉吉市東昭和町150番地

TEL 0858-22-8181(代)

FAX 0858-22-1350(代)

HP <http://www.pref.tottori.jp/kouseibyouin/>

診療時間

午前8時30分から午後5時まで

予約制(再来患者の希望者)もあります

診療科目等

内科 呼吸器内科 消化器内科
循環器内科 脳神経内科 不整脈内科
外科 消化器外科 心臓血管外科
脳神経外科 整形外科
精神科 小児科 皮膚科 泌尿器科
産婦人科 眼科 耳鼻いんこう科
リハビリテーション科 放射線科 麻酔科

受付時間

☆ 新患：平日 午前8時30分から11時まで

☆ 再来：平日 午前7時30分から11時まで

☆ 救急患者は、土曜日、日曜日、祝日、平日時間外も受け付けます